令和７年度　我孫子中学校　全国学力・学習状況調査　分析結果

【数学・国語】

３年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の分析結果を以下に記載しますのでご覧ください。

今年度の結果からの分析

【国語の調査結果に見られる特徴と現状】

「話す・聞く」について全国平均を下回っており、「文章に表れているものの見方・考え方を捉え、自分の考え方をつくる」問いでは無回答や得点が低いケースが見られる。それ以外の項目については平均かそれを上回る。

【数学の調査結果に見られる特徴と現状】

「データの活用」「関数」のような、日常の事象を式、グラフ、表などで数学的に表現、読み取るという分野での定着が弱い。それ以外の項目については平均化それを上回る。

【改善の目標】

各教科の課題を意識して授業改善を行い、学校間、地域間で授業実践を共有できるような体制を整える。

【改善方策】

国語では、授業中に対話型の読解を実施し、回答を書くのではなく、話して答えさせるような授業を実践する。「なぜそう思うか」「どの部分から読み取れるか」を意識する指導を実践する。

数学では、「答え」よりも「考え方」を重視する授業の展開を目指し、答えを導いた方法やほかの方法を話合わせる。

【検証方法】

月に１回の教科部会で検証結果や授業方法を共有し、生徒の様子を話し合う。有効な方法と改善の必要な方法をえわけ次の授業実践に生かしていく。研修部会で校内授業参観を企画し、お互いの授業の様子を共有し、評価する。

誤答が多い問題に関する分析

【国語の課題】

主張→理由→まとめの流れを作る力が弱く、「なぜなら～だから」「たとえば～」だからなど具体的に説明する練習が足りていない。誰に伝えるのかを考え、語句、例、接続詞をうまく使えるようになる必要がある。

【指導方法】

要約のトレーニングを行う。新聞記事や説明文を３行でまとめる練習や、構成メモを作る。文章の順序を考える力をつけるために「主張→理由→例→結論」をメモする。

【数学の課題】

式の意味を理解する力が弱く、数式に当てはめてただ答えを出しているだけであり、式の関係そのものを理解していない。表や式の情報をグラフに直す力が弱く、グラフの傾きや形、交点を言葉で説明できない。

【指導方法】

公式の暗記ではなく、意味とつながりを意識して考える学びを提供する。教科質問用紙の記載と同様に、「答え」よりも「考え方」を重視する授業の展開を目指し、答えを導いた方法やほかの方法を話合わせる授業を展開する。